

『スペイン語新文法 (Manual)』

第 40 章 情報機能

TADESKA 第 53 回例会

於 関西学院大学梅田キャンパス

2011 年 10 月 1 日

川口正通

第 40 章の構成

40.1 導入. 既知情報と新情報

40.2 主題の概念

40.3 焦点の概念

40.4 焦点の副詞

40.5 強調のコピュラ文

40.1 導入. 既知情報と新情報

40.1.1 情報機能. 定義と区別

40.1.1a

情報機能とは、文の各部分が談話においてどのような価値を持つかを定めるものである。具体的には次のような概念に区分される。

- ある要素が新情報か既知情報か
- ある要素が複数の選択肢の 1 つであるか否か
- ある要素が何らかの文法的手段によって強調されているのか、それとも逆に談話上の背景として扱われているのか。

上記の観点から見ると、以下の 8 つの用例には意味的差異が存在する。

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| (1) Yo dije eso ayer. | (2) Dije eso ayer. |
| (3) Eso dije yo ayer. | (4) Eso dije ayer. |
| (5) Eso, lo dije ayer. | (6) Eso, yo lo dije ayer. |
| (7) Ayer dije yo eso. | (8) Ayer dije eso. |

40.1.1b

既知情報(información conocida, información temática, tema, soporte など)

先行文脈で述べられたか否かに関わらず，すでに知られた情報.

新情報(información nueva, información remática, rema aporte など)

ある談話状況において，既知情報を補完するために重要なものとして与えられる情報.

(9) En 1945 terminó la Segunda Guerra Mundial.(en 1945 は既知情報)

(9') La Segunda Guerra Mundial terminó en 1945.(en 1945 は新情報)

40.1.2 既知情報と新情報の特徴

40.1.2a

既知情報の特徴

必ずしも先行文脈で述べられる必要はないが，話者は聞き手に知られたものとして発話する.

省略，あるいは代名詞化される傾向がある.

(10)

A: ¿A quién ha llamado Luisa?

B1: A su mamá.

B2: Ha llamado a su mamá.

B3: Luisa ha llamado a su mamá.

(11)

A: ¿Has visto a José últimamente?

B: Lo vi ayer.

40.1.2b

新情報の特徴

省略されない.

文末に置かれることが多い.

アクセントに特徴がある.

強勢語のみ

(12)

A: ¿Quién ha llamado?

B1: Ha llamado tu hermano.

B2: #Tu hermano ha llamado.

(13)

A: ¿A quién le gustó la película?

B1: Me gustó a mí.

B2: #Me gustó.

40.1.2c-d

動詞前の定名詞句は既知情報と解釈される傾向がある.

新情報と解釈するためには, 先行文脈も重要な役割を果たす.

(14) Clara [le regaló a su hijo un libro de cuentos el día de su cumpleaños.]

40.2 主題の概念

40.2.1 主題と既知情報

主題(tópico)

強調(destacado)された, または引き離された(desgajado)文要素で, 一般に文頭に置かれ, 既知情報をあらわす. 文の要素と一致するという点において, 前節で扱った既知情報(información temática)とは異なる. また, a propósito de, en cuanto a などの形式によって導かれることもある.

(15) La fruta, me dijo Alicia que la iba a comprar ella.

(15') En cuanto a la fruta, me dijo Alicia que la iba a comprar ella.

40.2.2 主題の構造と位置

40.2.2a

主題になりうる要素は、(代)名詞句、前置詞句、副詞句、(時に)形容詞句である。また文や、動詞の不定形（不定詞、現在分詞、過去分詞）が主題になることもある。

(16) Eso de que estaba peor en Río Grande, ¿qué significa?

(17) De la vida privada no me gusta hablar.

(18) En cuanto a que esté loca, no lo dudo.

40.2.2b-c

文中における主題の位置としては、文頭、文中、文末の可能性があるが、文頭に現れる頻度が最も高く、文末に現れる頻度が最も低い。文中にあらわれる場合は挿入句に近い。

(19) No la había oído jamás, esta canción.

(20) Las fuentes de Ortega, filosóficamente hablando, se suponen todas en Alemania.

文頭では複数の主題を並べることができる。

(21) Yo, hoy, de ese asunto, no pienso hablar.

インフォーマルなレジスターでは、中断した主題(*tópicos en suspenso*)が頻繁に現れる。この場合、主題は特徴的なイントネーションで発音され、また後続する文の前方照応要素によって繰り返される。

(22) El colegio del niño..., prefiero que se lo preguntes a él.

(23) El viaje a Italia..., mejor lo discutiremos otro día.

40.2.3 主題と対応する文との統語的・談話的つながり

主題化は元の場所からの前置のプロセスなのか、あるいは最初から文頭に現れるのかという議論もある。

40.2.3a

文頭にあらわれる主題が直接目的語および間接目的語の機能を果たす名詞句か前置詞句である場合、文の中で弱形代名詞による重複が起こる。

(24) Mis caprichos los necesito, no solo para agradarle, sino incluso para que usted me entienda, cuando hablo.

(25) A la tía le agradó el obsequio.

また、主題が無冠詞の場合には弱形代名詞の重複は起こらない。

(26) Pan, no quiero.

(27) *Pan, no lo quiero.

主題が属詞(atributo)である場合には弱形代名詞の有無は任意である。

(28) Muy inteligentes, no parecía que {lo fueran ~ fueran}.

弱形代名詞の代わりに所有詞があらわれることも可能である。

(29) En cuanto a Mónica, me dijo su madre que había abandonado los estudios.

主題が直接目的語でも間接目的語でもない場合、強勢のある代名詞を重複させるのは避けるべきである。

(30) De Clara, hace siglos que no sé nada de ella.

40.2.3b

主題化は従属節内で起こる場合や、従属節内の要素が主節の前に置かれることもある。

(31) Confieso que mi viudez la pasé mal.

(32) La chica le pide que no corra tanto, los caballos parece que van a desbocarse, pero el mayordomo no le hace caso.

(32)のような例において、los caballos parecen と動詞の活用形を主題に一致させる用法は避けるべきである。

40.2.3c

不定詞が主題化される場合は、動詞を重複させる。不定詞を用いた迂言句である場合は、迂言句内の不定詞は hacer を用いるか、あるいは明示しない。

(33) Recibirlo, yo lo recibo.

(34) Cocinar, no sabe (hacerlo) todo el mundo.

40.2.3d

対比的主題または平行的主題(tópico contrastivo o paralelo)

(35) Entregó a Hermógenes a la lanza y a Olegario la tea.

対比的主題は省略されず、また他と対比するという点において焦点(foco)に類似するところがあるが、弱形代名詞の重複など、主題に近い特徴も持つ。

40.2.3e

主題と題述の関係は(代名詞の重複などの)統語的特徴に厳密にあらわれず、談話上理解されるだけの場合もある。

(36) Por lo que toca a la dilación, me contestó mi amigo, no es mucho.

40.2.3f

主語を明示するか否かは情報機能によって決定される。
動詞前の主語は、それが旧情報である場合には省略される。
対比的主題に類する場合には主語が明示される。

(37) Ulrica me invitó a su mesa. Me dijo que le gustaba salir a caminar sola.

(38) El profesor está enfermo. – Él dice que no.

カリブ海地域のスペイン語では主語が明示される傾向がある。

40.3 焦点の概念

40.3.1 新情報と焦点

焦点(foco)

新情報の要素であり、音声的・統語的プロセスによってメッセージの中のある情報を際立たせる。省略はできない。

(39) ¿Cómo que no te llamé? Te llamé ayer.

(40) Fue aquí donde puse la cartera.

40.3.2 提示的焦点と対比的焦点

40.3.2a

提示的焦点(foco presentativo)

疑問文に対する答えのように、その文によって新しく提示される情報と一致する焦点。他の選択肢を排除するものではない。

(41) ¿Qué le regaló Clara a su hijo? – Un libro de cuentos.

対比的焦点(foco contrastivo)

言及する要素を、ある集団の中から排他的に特定する。対比される要素は文脈上明示されている場合と、そうでない場合がある。

(42) No quiero esta camisa sino aquella otra

(43) La música que le gusta a mi hijo es esta.

40.3.2b

同じ焦点が文脈によって提示的な場合と対比的な場合がある。

(44) ¿Quién inventó el autogiro? – El autogiro lo inventó Juan de la Cierva.

(45) El autogiro lo inventó un ingeniero alemán.- El autogiro lo inventó Juan de la Cierva.

強調のコピュラ文の焦点は、対比的焦点であることが多い。

(46) De este libro es del que me han estado hablando todo el mes.

40.3.3 焦点の統語的特徴

40.3.3a

焦点化(focalización)のプロセスでは、焦点は文頭に移動する。ただし、主題化とは異なり、弱形代名詞の重複は起こらない。

(47) Eso digo yo. (=Eso es lo que digo yo. [焦点])

(48) Eso lo digo yo. (=En cuanto a eso, lo digo yo. [主題])

40.3.3b

名詞が焦点となって前置されると、以下の4つの特徴が見られる。

- 強勢が置かれる。
- 後続する文との間にポーズはない。
- 不定語でも可能である。

(49) Algo deberíamos regalarle a tu primo.

- 否定文は容認されない。

(50) *Vino no toma él nunca, sino coñac.

40.3.3c

焦点が文頭に現れた場合、主語は動詞の後に置かれる。

(51) Eso mismo pensaba yo hacer esta tarde.

(51') *Eso mismo yo pensaba hacer estar(sic) tarde

強調のために要素を文頭に移動するというプロセスは、疑問詞は文頭に置かれるという点、および前置要素(疑問文であれば疑問詞)には動詞が後続するという点において疑問文や感嘆文と類似している。ただし、カリブ海地域においては¿Qué tú crees?という文も自然である。

疑問詞や焦点は節の外に現れることもある。

(52) ¿Qué crees tú que haría?

(53) Eso mismo creo yo que haría.

40.4 焦点の副詞

40.4.1 焦点の副詞の種類

焦点の副詞(adverbios de foco)

焦点の副詞は、修飾する要素が際立てられる、強調される、選択される、他のものと対比されるといった特徴を持つ。

(54) El doctor recibe solo los martes.

副詞の焦点は位置、副詞のタイプ、音調、文脈によって決定される。

(55) Los turistas japoneses visitaron también el museo provincial.

(55') Los turistas japoneses también visitaron el museo provincial.

疑問詞や否定語も、ある要素を焦点化することが可能である。

40.4.1b

焦点化の副詞は以下の 4 つのグループに分類することができる。また、この他に否定の *no*, 肯定の *sí* も加わる。

- 包含をあらわすもの : *también, tampoco, incluso, inclusive* など
- 排除をあらわすもの : *solo, únicamente, exclusivamente* など
- 特殊化・具体化をあらわすもの : *precisamente, concretamente* など
- 近似をあらわすもの : *casi, prácticamente, apenas* など
- 尺度をあらわすもの : *al menos, por lo menos, incluso, hasta* など

40.4.2 否定の焦点

対比的(*contrastiva*)否定または論争の(*polémica*)の否定では、否定の焦点となる要素が排除、否定あるいは却下され他の要素に置き換えられる。否定要素は焦点に隣接している場合とそうでない場合がある。

(56) Encontré ayer no uno, sino dos.

(56') No encontré ayer uno, sino dos.

sino 以下は必須であり、また焦点が動詞句である場合、後続部分は *sino que+VP* の形式となる。

(57) No salió de casa, sino que se quedó a descansar.

40.4.2b-c

否定の焦点となる要素は必ず強勢形であり、また否定は統語的なもののみであって、形態素や語彙的意味によってあらわされるものは含まれない。

(58) No es probable, sino tan solo vagamente posible.

(58') *Es improbable, sino tan solo vagamente posible.

ここで扱っている *sino* は、排他をあらわす *sino* とは異なる。

(59) No dijo sino que era inocente.

40.4.2d

否定の焦点が否定語と隣接している場合は、修正(correctiva)の否定と呼ばれることがあり、これには 2 つのタイプがある。否定の焦点が置き換え要素に先行するタイプと、置き換え要素が先にあらわれるタイプである。後者の場合、対比される要素の一方は明示されないこともある。

(60) Fue a comer no con sus padres, sino con sus abuelos.

(61) Fue a comer con sus abuelos, no con sus padres.

(62) Este fin de semana voy a leer, pero no el libro que mandó el profesor.

40.4.3 肯定の焦点. 副詞 sí を用いた構文

40.4.3a

文全体を焦点とし、重要性を強調したり、逆の方向性を持つ情報と対置したりする場合は、lo que sucede es que や lo que pasa es que によってあらわされる強調構文が用いられる。これらの構文は談話の最初では用いられない。また、es que は前言に対する弁明をあらわし、動詞の直前に置くことも可能である。

(63) Tú es que eres muy friolenta.

40.4.3b-c

副詞 sí には 2 つの用法がある。1 つは肯定の副詞として用法、もう 1 つは動詞句を焦点化する副詞としての用法である。後者は sí que と交替可能であり、また対比的焦点と提示的焦点の場合があるが、対比的焦点であることの方が多い。対比的焦点の場合、先行文脈に明示的であれ暗示的であれ、否定表現が必要である。

(64) ¿Vienes? – Sí. (肯定の副詞)

(65) El cartero sí ha traído el paquete. (動詞句を焦点化)

この種の対比的焦点の変種として、逆接の pero の後に sí を用いる形式が存在する。

(66) No la puedo recibir el martes, pero sí el miércoles.

40.4.4 包含の副詞

包含の副詞は、焦点化された要素と類似した要素の存在をあらわす。

(67) Vino también Ana.

también, tampoco, además, inclusive(の用法の1つ)は、既に表示された要素、あるいは文脈から推論される要素に焦点化された要素が加えられるという理由から「累加(aditivos)の副詞」と呼ばれる。

(68) [...] un proceso más justo para el niño y también para los padres.

también と tampoco では動詞句の省略が可能である。

(69) El taxista está desesperado y yo tampoco.

40.4.4a

incluso, ni siquiera, hasta は包含の副詞であると同時に尺度もあらわす。これらによって焦点化された要素はある集合の存在を想起させるだけでなく、話者が想定する尺度の中の極点の1つに位置していることをも示すためである。

(70) Todos se pusieron de su parte, todos, incluso mis propios padres.

40.4.4b

inclusive は incluso と同様、尺度の解釈を受けることがあるが、1つまたは複数の要素が、ある集団から排除されないことを示すために使用される場合には包含の解釈だけで、尺度の解釈は受けない。

(71) [...] en los años comprendidos entre 1989 y 1991, ambos inclusive.

inclusives (ambos inclusives)という形式は誤用である。

40.4.4c

ni siquiera は否定要素であるため、動詞の前に置かれた場合は別の否定要素を用いる必要はない。動詞の後に置かれる場合は動詞の前に別の否定要素が必要である。

(72) Ni siquiera una vez llamó.

(72') No me llamó ni siquiera una vez.

40.4.4d

前置詞の hasta とは異なり、焦点の副詞としての hasta は前置詞格の代名詞の方が高い。

(73) Pero esta vez lo hizo con gusto y hasta con buen humor.

40.4.5 排除の副詞

排除の副詞(句)(solo, únicamente, exclusivamente など)は焦点化された要素を、ある集団の外に出すことを意味する。

40.4.5a-c

排除の副詞は焦点化された要素以外の選択肢が存在しないことをあらわす。

(74) Solo Andrés lo sabía.

また、一部の国の口語では no... nada más que...の代わりに solo... que...という形式も使用される。

(75) Una rapsoda, por buena que sea, solo hace que castigar las orejas.

solo が尺度の意味で使用されることがあり、また尺度の意味と唯一性(=排除)の意味であいまいな例も見られる。

(76) Solo asistieron a la reunión el decano y su equipo.

solo は前置詞とその目的語の間に生じることもあるが、前置詞の前に置かれた場合と同義である場合がほとんどである。これは前置詞の後に不定詞が用いられる場合も同様である。

(77) con solo una mano = solo con una mano

(78) con solo verle la cara = solo con verle la cara

また、同様の位置で他の副詞(句)が使用されることもある。

40.4.5d

nada más は、solo に類似した排除の副詞句として使用される。

(79) La mayor parte de la Cuesta de las Comadres nos había tocado por igual a los sesenta que allí vivíamos, a los Torricos, nada más un pedazo de monte.

no más (nomás)はアメリカスペイン語で solamente と同義で使用されるが、虚辞的な場合や、 simplemente や meramente に近い場合もある。

(80) Venga más seguido, pues. Mire cómo será que nomás los viernes. Si no es obligación.

(81) Estarán gordos como estos... - ¡De dónde no más doctor!

(82) Y Eva era, de entrada nomás, difícil para el colegio.

40.4.5e

副詞 puro はアメリカ大陸の多くの国々で使用され、形容詞および動詞の不定形を修飾する。文脈によっては solo や nada más que と書き換えが可能である。

(83) ¡Si es cuestión de llevar la lengua afuera de puro correr!

また、特殊化の焦点化副詞である *meramente* や *simplemente* に近い意味を持つ場合もある。その場合、同時に強調の意味を持つこともある。

(84) [...] *escenas imaginadas, edulcoradas, perfeccionadas, reales casi de puro vivirlas y revivirlas a todas horas.*

40.4.6 特殊化の副詞と近似の副詞

40.4.6a

特殊化の副詞は、焦点化した要素に注意を向けさせて強調する。*precisamente, exactamente, sobre todo*などは焦点要素を際立たせるのに対し、*meramente, simplemente*などは焦点要素が複雑ではない、または他の要素と混合しないことをあらわす。

(85) *A mi muy amada comadre, afectuosísimas memorias, y todos mis ahijados y sobrinos, especialmente a mi Andrés.*

40.4.6b

近似の副詞(*prácticamente, casi, apenas*)は形容詞、副詞、名詞句、前置詞句、動詞句を修飾する。ある属性の度合いをあらわすものではないことから数量詞ではなく、その属性全体をそれに近い別の属性と対比する。従って、段階をあらわす形容詞以外の形容詞との共起が可能である(*casi infinito, casi mío*)。また、数量詞を焦点化した場合には、言及した数量よりも低い数量の存在を示す。

(86) *Casi se comió un kilo de papas.*

また、近似の副詞はアスペクト副詞の特徴も有する。限界点を持つプロセスをあらわす動詞(到達動詞または達成動詞)の定形に用いられる場合は、その終点に達していないことをあらわす。

(89) *Casi se murió.*

(88) *Prácticamente ha concluido el proceso negociador.*

点的または限界点を持つ動作をあらわす動詞と共に用いられた場合は、そのプロセスが実現する可能性があったが、実現しなかったことをあらわす。

(89) Casi saltó la valla.

40.4.6c

副詞 *apenas* は否定要素であるため、動詞の前にあらわれた場合は他の否定語句は不要であり、その場合には「ほとんどーない(*casi* + 否定)」に相当する。*apenas* の焦点が数量表現である場合、排除の副詞と類似した意味をあらわす。

(90) Apenas recibió el saludo de unos treinta curiosos. (≒Solo recibió...)

40.5 強調のコピュラ文

40.5.1 概念と種類

動詞 *ser* を用いてある要素を際立たせたり、強調したりした構文を「強調のコピュラ文(*copulativas enfáticas*)」と呼ぶ。これはさらに3つのタイプに分けられる。

- 関係詞を用いるもの : *Eso es lo que digo yo.*
- フランス語の影響による *que* を用いるもの : *Fue en este lugar que lo encontraron.*
- 条件形式を用いるもの : *Si habla con alguien es con su amigo Pablo.*

40.5.2 関係詞を用いた強調のコピュラ文. 形式的, 意味的, 情報的特徴

関係詞を用いた強調のコピュラ文は分裂文とも呼ばれ、動詞 *ser*, 先行詞が明示されない関係詞節, 焦点要素の3つの部分から成る。関係詞は *el que*, *lo que* などが使用されるが、さらに複雑な *lo peor es que* や *el único que* といった形式があらわれることもある。

(91) Más imaginación es lo que le falta a este autor.

(92) El único que avisó fui yo.

関係詞は意味的に焦点要素と一致するのが基本であるが、例外もある。

(93) Fui yo quien llamó. (人)

(94) En esta casa es donde vivo. (場所)

(95) Un poco más fría es como me gusta a mí la cerveza. (形容詞句と関係副詞)

動詞 pasar, suceder, ocurrir を用いて文全体を焦点化する場合には、中性の lo que が使用される。また、焦点化要素が文以外で中性の関係詞が用いられることもある。

(96) Más imaginación[femenino] es lo que [neutro] le falta a este autor.

(97) {Lo que ~ La que} lo vuelve loco es esa muchacha.

40.5.2b-d

動詞 ser, 関係節, 焦点要素の順序はさまざまであるが、関係節が 2 番目に置かれることはない。

(98) *Es lo que le falta a este autor más imaginación.

関係節で述べられる情報は一般に前提(既知情報)と考えられるが異論もある。また、関係節を用いた強調のコピュラ文であらわされるのは対比的焦点である場合が多いが、提示的焦点の場合もある。

(99) Con este libro es con el que vamos a trabajar.

(Dicha por un profesor sin ánimo de rechazar otro libro)

40.5.2e

1 つの文から、関係詞を用いて強調のコピュラ文を作ることが可能である。

(100) A este autor le falta más imaginación.

(100') Más información es lo que le falta a este autor.

(100'') A este autor es al que le falta más información.

(100''') Lo que pasa es que a este autor le falta más imaginación.

40.5.3 関係詞を用いた強調のコピュラ文における伝染的効果と一致関係

関係詞を用いた強調のコピュラ文には、「伝染的効果(efectos de contagio)」と呼ばれる一連の統語的特徴が存在する。

40.5.3a 関係節内の動詞の人称

動詞 *ser* は焦点要素の人称と一致するが、これが関係節内の動詞にも影響を与えることがある。フォーマルな文体では前者が好まれる。

(101) Soy yo el que llamó.

(101') Soy yo el que llamé.

40.5.3b 再帰代名詞の一致

関係節にあらわれる再帰代名詞には関係代名詞の人称と一致して *sí* が用いられるが、焦点要素と一致する例も見られる。フォーマルな文体では前者が好まれる。

(102) Eres tú el que habla siempre de sí mismo.

(102') Eres tú el que hablas siempre de ti mismo.

40.5.3c 動詞 *ser* の時制

動詞 *ser* の形式が関係節内の時制の影響を受けることがある。(103)の2種は同義でありいずれも誤用ではない。

(103) En esta casa {fue ~ es} donde murió.

40.5.3d 動詞 *ser* の人称と数

ser の人称は、焦点要素が 1 人称または 2 人称の代名詞である場合はそれに一致する。焦点要素がそれ以外の人称である場合、その焦点要素が *ser* の後にあらわれるならば、同様に一致する。

(104) Soy yo el que...

(105) Eres tú quien...

(106) Eran estos papeles los que me hacían más falta.

中性の関係詞が使用される場合、複数形の焦点が動詞 *ser* に後続するならば、*ser* は単数形または複数形のいずれも用いられる。

(107) Lo único que compré {es ~ son} estos libros.

反対に、焦点要素が文頭にあらわれるならば、たとえ複数形であっても動詞 *ser* は単数形で使用する方が好まれる。

(108) Estos libros es lo único que compré.

40.5.4 フランス語の影響による *que* を用いたコピュラ文

動詞 *ser*、焦点要素、*que* の 3 つによってあらわされる強調のコピュラ文を「フランス語の影響による *que* の構文(construcciones de *que* galicado)」と呼ぶ。

(109) Fue por eso que lo mataron.

(110) Fue entonces {que ~ cuando} ocurrió.

この構文はアメリカスペイン語の特徴であり、すべてのレジスターで用いられる。順序は焦点要素が *ser* に先行するパターン(Así fue que ocurrió.)および後続するパターン(Fue así que ocurrió.)の 2 種類のみであり、後者の方がやや頻度が高いものの、いずれも話し言葉、書き言葉を問わず広く用いられている。また、この構文において焦点要素となりうるのは副詞(句)か前置詞句のみであるが、例外的に名詞句の場合もある。

40.5.5 条件形式を用いた強調のコピュラ文

動詞 *ser*, 接続詞 *si* によって導かれる条件節, 焦点要素から成るものを「条件形式を用いた強調のコピュラ文(*copulativas enfáticas condicionales*)」と呼ぶ. 動詞の項が焦点化される場合は, 条件節の中に *algo*, *alguien* などの不定語が含まれる. 焦点要素が項でない場合は, 不定語の使用は任意である.

(111) *Si comía algo, era chocolate.*

(112) *Si depende de alguien, es de los padres.*

(113) *Si lee, es en la computadora.*

(113') *Si lee en algún lugar, es en la computadora.*

文全体を焦点化する場合は, 動詞 *pasar*, *suced*, *hacer* などが使用される.

(114) *Si ocurre algo, será que yo llegue tarde al trabajo.*

40.5.6 その他の強調のコピュラ文

ベネズエラ, コロンビア, エクアドル, パナマの民衆語では, 関係代名詞も従属接続詞も使用しない強調のコピュラ文が使用される. この形式は書き言葉で使用されることは珍しく, またフォーマルな文体では避けられる傾向にある.

(115) *Comía es papas. (=Lo que comía es papas.)*

(116) *Vino fue en barco. (=Como vino fue en barco.)*